

平成27年度
自己評価報告書

岡山自動車大学校

1 学校の教育理念、校訓

自律創生・信念貫徹・共存共栄

2 具体的な教育目標、スローガン、育成人材像

- ①具体的な教育目標・方針
 - ・自動車整備士登録試験一級小型、二級ガソリン・ジーゼル三種目の100%合格
 - ・関連業界への100%就職
 - ・時代・企業ニーズへの対応
 - ・各種関連資格取得
 - ・基礎学力の修得・補填
 - ・基礎的な生活習慣・社会常識・マナー・規範教育の徹底
 - ・国際感覚の涵養
 - ・学生一人一人の個性・能力に適合したきめ細やかな指導
- ②具体的なスローガン
 - ・学生満足度の向上・保護者信頼度の向上
- ③具体的な育成人材像
 - ・セールスも出来るコミュニケーション能力を備えた自動車整備士の育成
 - ・将来の企業幹部候補
 - ・時代の変化に対応できる自動車整備士の育成
 - ・国際性を兼ね備えた自動車整備士の育成

3 運営方針

校訓の精神の元、岡山自動車大学校の具体的な教育目標・スローガン・育成人材像を現実化すべく邁進する。全教職員が自らの使命・役割を認識した上で、現状を分析し、将来予測を踏まえた上で学校の教育目標・育成人材像の実現に向けて解決すべき課題が何であるかを究明し、課題を解決するための方策を練り、その方策に沿った具体的な行動を明らかにするPDCAサイクルの手法により改善を継続していくべく定期的に成果を意識し取組を職員会議等でチェックしていく。

4 評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目的・人材育成像

評価項目	適切・・・4, ほぼ適切・・・3, やや不適切・・・2, 不適切・・・1			
・理念・目的・育成人材像は定められているか	④	3	2	1
・学校の特色は何か	④	3	2	1
・学校の将来構想を抱いているか	4	③	2	1

①課題

今後益々進む少子化のためポジティブな将来構想が立てづらい。

②今後の改善方法

教育目標等に関しては常に再評価し、よりよいものを作り上げていく。将来構想については時勢の変化を見据え将来起こりうる様々な状況を想定した上で構築していく。

(2) 学校運営

評価項目	適切…4, ほぼ適切…3, やや不適切…2, 不適切…1			
・運営方針は定められているか	④	3	2	1
・事業計画は定められているか	④	3	2	1
・運営組織や意志決定機能は、効果的なものになっているか	④	3	2	1
・人事や賃金での処遇に関する制度は、整備されているか	④	3	2	1
・意志決定システムは整備されているか	④	3	2	1
・情報システム化による業務の効率化が図られているか	4	③	2	1

①課題

教職員が少人数のため校務分掌の明確化が難しく兼務になる。

②今後の改善方法

校務分掌をこなせるよう全教職員が意志疎通につとめ協力連携すること。

(3) 教育活動

評価項目	適切…4, ほぼ適切…3, やや不適切…2, 不適切…1			
・各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界のニーズに向け正しく方向付けられているか	④	3	2	1
・就業年数に対応した教育到達レベルは明確にされているか	4	③	2	1
・カリキュラムは体系的に編成されているか	④	3	2	1
・学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか	④	3	2	1
・キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか 作成・見直し等が行われているか	4	③	2	1
・授業評価の実施・評価体制はあるか	4	③	2	1
・育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4	③	2	1
・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4	③	2	1
・資格取得の指導体制はあるか	④	3	2	1

①課題

卒業来校生へのアンケートで実際の現場作業と学校の実習とのずれが浮き彫りになった。以前は夏休業中に実施していた教員による授業評価・研究授業が行事多忙なため実施できなくなっている。評価基準に対しては前回と同様統一基準はあるが教員間のずれが生じることは考えられる。教員の新規採用が年々困難になり現教員の授業コマ数が多くなっている。

②今後の改善方法

基礎的な構造・理論・機能・名称把握等の国家試験合格のための実習・知識取得も踏まえた上で、現場の作業に近づけるための実習も可能な限り取り入れていく。評価基準は引き続き科目の枠を越えて情報を共有し、より公平な評価が出来るよう努める。

(4)教育成果

評価項目	適切・・・4, ほぼ適切・・・3, やや不適切・・・2, 不適切・・・1			
・就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか	4	③	2	1
・資格取得率の向上が図られているか	4	③	2	1
・退学率の低減が図られているか	4	③	2	1
・卒業生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	③	2	1

①課題

取得目標資格が年々増えているためその対策の補習等を効率的に計画するのが困難。
二級自動車整備士国家資格合格率については満足しているが、一級に関してはここ2年連続して100%を逃がしている。退学者数に関しては年度によってかなりばらつきがある。

②今後の改善方法

効率よく資格が取得できるよう補習・指導計画を常に見直していく。資格取得の重要性についても意識付けを強化する。退学者低減のために業者による心理テストを導入する。

(5)学生支援

評価項目	適切・・・4, ほぼ適切・・・3, やや不適切・・・2, 不適切・・・1			
・就職に関する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
・学生相談に関する体制は整備されているか	4	③	2	1
・学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	③	2	1
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	③	2	1
・学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか	④	3	2	1
・保護者と適切に連携しているか	④	3	2	1
・卒業生への支援体制はあるか	4	③	2	1

①課題

学生相談に関してはスクールカウンセラー導入が望ましい。課外活動に関してもクラブカーズ以外にスポーツ系サークルの設立要望が上がることもあるが、双方とも規模的に難しい。同窓会総会の実現もなかなか現実化していない。

②今後の改善方法

同窓会総会の早期実現を図ること。

(6)教育環境

評価項目	適切・・・4, ほぼ適切・・・3, やや不適切・・・2, 不適切・・・1			
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	③	2	1
・学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	④	3	2	1
・防災に対する体制は整備されているか	4	③	2	1

①課題

自動車技術の進歩に合わせて最新の設備・車両を備えるのにコストがかかる。
校舎も30周年を迎え所々老朽化が目立ってきた。

②今後の改善方法

優先順位を重視し、効率的に教育環境整備につとめる。

(7)学生の募集と受け入れ

評価項目	適切・・・4, ほぼ適切・・・3, やや不適切・・・2, 不適切・・・1			
・学生募集活動は、適正に行われているか	④	3	2	1
・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	④	3	2	1
・入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか	④	3	2	1
・納付金は妥当なものとなっているか	④	3	2	1

①課題

少子化のため学生募集が困難でありコストもかかる。

②今後の改善方法

費用対効果を意識し効率的な募集、および教育効果でPR出来るような募集を心がける。

(8)財務

評価項目	適切・・・4, ほぼ適切・・・3, やや不適切・・・2, 不適切・・・1			
・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	④	3	2	1
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④	3	2	1
・財務について会計監査が適切に行われているか	④	3	2	1
・財務情報公開の体制整備はできているか	④	3	2	1

①課題

--

②今後の改善方法

--

(9)法令等の遵守

評価項目	適切・・・4, ほぼ適切・・・3, やや不適切・・・2, 不適切・・・1			
・法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④	3	2	1
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	③	2	1
・自己点検・自己評価の実施と問題点の改善につとめているか	4	③	2	1
・自己点検・自己評価結果を公開しているか	④	3	2	1

①課題

個人情報保護に関して教職員による情報漏洩防止の意識付けを引き続き強化していく必要がある。

②今後の改善方法

(10)社会貢献

評価項目	適切・・・4, ほぼ適切・・・3, やや不適切・・・2, 不適切・・・1			
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	③	2	1
・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4	③	2	1

①課題

以前は夏期休業を利用して学校開放講座で点検整備教室を実施していたが、体験入学・資格取得講座等の行事が多忙で行っていない。
カリキュラムが多忙なため学生のボランティア活動推奨がしづらい。

②今後の改善方法

出来る範囲での社会貢献を模索していきたい。

5 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

自己評価の結果改善に努めるべき項目が多く見ついている。
これらの諸課題に対し個々にチェックし改善に努めていく必要がある。
将来的な展望として、学生募集、優秀な教員の確保など困難な問題が多く存在している。
また30周年を迎え校舎を中心とした施設のあり方も見直し教育環境の改善も課題となる。
学生募集に関しての本校の特色として現在留学生の受入をしていない。日本人学生の安定確保こそ長期的な安定運営の基礎と考える。
またAO入試も導入しておらず、いわば「昔ながらの」手法によって入試選考を実施している。
この考え方はぶれることなく今後も継続していくつもりである。